

個人調書

ストウ サトル

須藤 智

2015/04/01 現在

1. 職歴（常勤職のみ）

2007年8月1日～ 産業技術総合研究所認知行動システム研究グループ認知行動システム

2009年3月31日 研究グループ 特別研究員

2009年4月1日～ 目白大学外国語学部 専任講師（情報教育）

2010年3月31日

2010年4月1日 静岡大学大学教育センター 専任講師（現在に至る）

2. 研究業績

・審査提出論文・著書

1. 須藤智・原田悦子・田中伸之輔・安達悠子・日根恭子（2014）. 高齢者によるタブレット型端末の利用学習：新奇な人工物の利用学習過程に影響を与える内的・外的要因の検討 認知科学, 21(1), 62-82.
2. 須藤智（2013）. 第3章 第2節 人工物の使いやすさと認知過程 兵藤宗吉・野内類(編) 認知心理学の冒険 ナカニシヤ出版. Pp.140-152. （分担執筆）
3. Suto, S., & Kumada, T. (2010). Effects of age-related decline of visual attention, working memory and planning functions on use of IT-equipment. Japanese Psychological Research, 52(3), 201-215.

A 学術論文等（著書・論文・翻訳等）

■著書

1. 兵藤宗吉・須藤智（編著）（2008）. 認知心理学基礎実験入門 八千代出版.（編著）

■著書（分担執筆）

1. 須藤智・原田悦子（2014）. 注意と記憶 日本認知心理学会（監修） 認知心理学ハンドブック 有斐閣. Pp.106-107.
2. 須藤智（2013）. 第3章第2節 人工物の使いやすさと認知過程 兵藤宗吉・野内類(編) 認知心理学の冒険 ナカニシヤ出版. Pp.140-152. （再掲）
3. Harada, E.T., Suto, S., & Asano, A. (2012). Error Repetition phenomena and its relation to cognitive control, memory and ageing: Why does it happen outside the psychology lab? In M. Naveh-Benjamin & N. Ohta (Eds.) Memory and Aging: Current Issues and Future Directions. Psychology Press. Pp.49-68.

4. 須藤智 (2012). 第 2 章知覚の発達 福本俊・西村純一 (編) 発達心理学 ナカニシヤ出版. Pp.13-23.
5. 原田悦子・須藤智 (2011). 第 6 章注意・制御と高齢化. 原田悦子・篠原一光(編)注意と安全 北大路書房. Pp.130-165.
6. 須藤智・熊田孝恒, 北島宗雄 (2010). 第 5 章第 1 節 高齢者の認知機能と情報行動 北島宗雄・内藤耕(編) 消費者行動の科学 東京電機大学出版会. Pp.233-248.
7. 須藤智 (2010). 第 3 章 認知心理学 兵藤宗吉・緑川晶(編) 心の科学-理論から現実社会へ ナカニシヤ出版. Pp.63-75.
8. 浅野昭祐・須藤智 (2008). 第 5 章 EXPLAB で製作する心理実験プログラム 兵藤宗吉・須藤智 (編) 認知心理学基礎実験入門 八千代出版. Pp.177-202.
9. 須藤智 (2008). 第 6 章 Visual Basic 2005 Express Edition で製作する心理学実験プログラム 兵藤宗吉・須藤智 (編) 認知心理学基礎実験入門 八千代出版. Pp.177-202.
10. 渡辺恒夫・小久保秀行・須藤智 (2007). 第 9 章 心理測定 渡辺恒夫(編) 未来をひらく心理学 八千代出版. Pp.179-203.
11. 須藤智 (2007). 第 3 章 認知心理学：情報処理と記憶 渡辺恒夫(編) 未来をひらく心理学 八千代出版. Pp.67-85.
12. 須藤智 (2007). 注意・刺激顕在性 ユーザビリティハンドブック編集委員会 (編) ユーザビリティハンドブック 共立出版. Pp.450, Pp530.

■ 学術論文

1. 須藤智・原田悦子・田中伸之輔・安達悠子・日根恭子 (2014). 高齢者によるタブレット型端末の利用学習：新奇な人工物の利用学習過程に影響を与える内的・外的要因の検討 認知科学, 21(1), 62-82. (査読有) (再掲)
2. 安達悠子・原田悦子・須藤智・熊田孝恒・藤原健志 (2014). 認知的加齢と新奇な人工物利用：高齢参加者データベースに基づくユーザビリティテスト・データの分析 認知科学, 21(1), 83-99. (査読有)
3. 須藤智・原田悦子 (2012). デジタル・ハイビジョン時代のユーザビリティテストラボ：みんなの使いやすさラボのユーザビリティラボ構築の経験から 人間生活工学, 13(2), 27-31. (査読有)
4. 緒方啓史・上田一貴・須藤智・熊田孝恒・伊福部達 (2012). 加齢による認知機能の変化が高齢者の ICT 機器を用いた就労への意欲に及ぼす影響 情報処理学会論文誌, 53(7), 1698-1710. (査読有)
5. Ogata, K., Ueda, K., Suto, S., Kumada, T., & Ifukube, T. (2012). Relationship between age-related decline of cognitive functions and willingness to work using a computer. *Procedia Computer Science*, 8, 255-260. (査読有)
6. Ogata, K., Suto, S., Kumada, T., Watanabe, K., & Ifukube, T. (2011). Interface design of a central monitoring device taking cognitive aging into account. *Proceedings of Systems, Man, and Cybernetics (SMC)2011 IEEE International Conference*, 2455-2460. (査読有)
7. 須藤智・原田悦子 (2011). 心理学とソーシャルロボット-分析手法を中心として- ロボッ

ト学会学会誌, 29(1), 14-18. (査読有)

8. Suto, S., & Kumada, T. (2010). Effects of age-related decline of visual attention, working memory and planning functions on use of IT-equipment. *Japanese Psychological Research*, 52(3), 201-215. (査読有) (再掲)
9. 熊田孝恒・須藤智・日比優子 (2009). 高齢者の注意・作動記憶・遂行機能と認知的インタフェース *心理学評論*, 52(3), 363-378. (査読有)
10. 須藤智・原田悦子 (2008). 人-ロボット間の相互作用分析:人の視点から見たロボット評価の基礎 *日本ロボット学会誌*, 26(8), 868-869. (査読有)
11. 南部美砂子・原田悦子・須藤智・重森雅嘉・内田香織 (2006). 医療現場におけるリスク共有コミュニケーション:看護師を中心とした対話データの収集と分析 *認知科学*, 13, 62-79. (査読有)
12. 須藤智・兵藤宗吉 (2006). 作動記憶における視覚的リハーサルの検討-視覚パターンテストにおける再生課題と再認課題の比較から- *認知心理学研究*, 3(2), 1-8. (査読有)
13. 須藤智 (2005). 作動記憶における視空間的情報のリハーサルシステムの検討-空間タッピング課題の妨害効果から- *認知心理学研究*, 2(1), 1-8. (査読有)

■ 紀要論文・Proceeding 等

1. 宮代こずゑ・原田悦子・高橋知世・北神慎司・須藤智 (2012). 画像認証システムによる本人認証(2): 画像の種類及び再認のテスト反復効果 *電子情報通信学会技術研究報 LOIS ライフインテリジェンスとオフィス情報システム*, 112(35), 9-14. (査読無)
2. 高橋知世・北神慎司・宮代こずゑ・原田悦子・須藤智 (2012). 画像認証システムによる本人認証(1) *電子情報通信学会技術研究報告 LOIS ライフインテリジェンスとオフィス情報システム*, 112(35), 1-8. (査読無)
3. 須藤智 (2011). 授業パッケージとは? 静岡大学の大学生の就業力育成支援事業について *文部科学時報*, 12月号, 36-37. (依頼原稿)
4. 須藤智 (2011). 静岡大学の全学教育科目の授業アンケートの評価値に影響を与える要因の検討-平成21年度授業アンケートの結果から- *静岡大学教育研究*, 7, 1-6. (査読有)
5. 田澤実・須藤智 (2008). OB・OG、大学4年生のキャリア講話による低学年の大学生を対象にしたキャリア支援-卒業生による自主企画を例にして- *生涯学習とキャリアデザイン*, 5, 75-86. (査読無)
6. 原田悦子・須藤智・森健治・内野寛治 (2007). ネットワークを利用した検索実験・実施報告 *法政大学総合情報センター研究紀要*, 1, 31-45. (査読無)
7. 原田久美・原紀代・松井巖徹・中俊弥・原田悦子・須藤智 (2007). 大画面テレビでの写真共有における New User Experience の評価 *松下テクニカルジャーナル*, 53(1), 46-50. (査読有)
8. 須藤智 (2006). 作動記憶における視空間的スケッチパッド研究の現状と展望. *教育学論集* (中央大学文学部), 55, 85-99. (査読無)
9. 須藤智・鈴木宏幸 (2005). 心理学実験における汎用ボイスキーの製作と時間精度の検討論究 (中央大学大学院), 37(1), 177-188. (査読無)
10. 須藤智・兵藤宗吉 (2005). 作動記憶における視覚的リハーサルに対する無関連絵画刺激の妨害効果の検討 *人文研紀要* (中央大学人文学研究所), 55, 85-99. (査読無)

■ 訳書

1. 須藤智・磯野真美・南部美砂子・若林正 (2004). 翻訳: いかにか安全を確保するか? 他分野のアプローチに学ぶ (Babette Fahlbruch, Bernhard Wilpert and Charles Vincent

著) 看護研究 (医学書院), 37, 77-92. (分担訳書)

B 学会発表等 (口頭発表、ポスター発表、講演等)

■学会発表 (口頭発表, ポスター発表)

2. 酒井徹也・須藤智 (2014). ワーキングメモリにおける背景色文脈と加齢の影響 日本認知心理学会第 12 回大会. (仙台, 東北大学, 2014 年 6 月) (ポスター発表)
3. 大門貴之・原田悦子・須藤 智 (2014). 系列的問題解決によって形成される概形記憶, : 手がかりの効果に関する年齢群間比較 日本認知心理学会第 12 回大会. (仙台, 東北大学, 2014 年 6 月) (ポスター発表)
4. 栗延 孟・藤原健志・田中伸之輔・須藤 智・原田悦子 (2014). 人工物利用に対する「怖がり」特性 日本認知心理学会第 12 回大会. (仙台, 東北大学, 2014 年 6 月) (ポスター発表)
5. 坂井敬子・須藤智・佐藤龍子 (2014). 汎用的/専門的/実務的資質能力の学年による違いと学業成績との関連. 第 19 回大学教育研究フォーラム. (京都, 京都大学, 2014 年 3 月) (口頭発表) (査読無)
6. 須藤智・坂井 敬子・日比 優子 (2014). 静岡市街地の産業界と連携したプロジェクト型演習授業の実践 大学教育改革フォーラム in 東海 2014. (名古屋, 名古屋大学, 2014 年 3 月) (口頭発表) (査読無)
7. 安達 悠子・原田 悦子・須藤 智・熊田 孝恒 (2013). 新奇な機器の操作達成に関わる加齢諸要因「みんラボ」データベース分析による検討 日本心理学会第 77 回大会. (札幌, 札幌コンベンションセンター, 2013 年 9 月) (ポスター発表) (査読無)
8. 原田悦子・須藤智・山口一太 (2013). 「使うことの学習」過程を知る: GMLT による加齢効果の実験室的検討 日本認知科学会第 30 回大会. (茨城, 筑波大学, 2013 年 6 月) (ポスター発表)
9. 安達 悠子・須藤智・原田 悦子 (2013). 情報機器利用に対する態度と加齢 認知機能による個人差を加えての検討 日本認知心理学会第 11 回大会. (茨城, 筑波大学, 2013 年 6 月) (ポスター発表)
10. 須藤智・原田 悦子・田中 伸之輔・安達 悠子・日根 恭子 (2013). 認知的加齢が人工物利用学習に及ぼす影響 日本認知心理学会第 11 回大会. (茨城, 筑波大学, 2013 年 6 月) (ポスター発表)
11. 宇賀田栄次・須藤智・坂井敬子・佐藤龍子 (2013). 学生-企業-大学三者による利益享受型インターンシップ-食品産業を対象とした地域金融機関との連携授業- 大学教育フォーラム. (京都, 京都大学, 2013 年 3 月) (口頭発表) (査読無)
12. 酒井徹也・須藤智・坂井敬子 (2013). 作業端末の違いがグループワークにおける学びに及ぼす影響 (2) -iPad と紙の違いに注目して: 質的指標からの検討-. 大学教育フォーラム (京都, 京都大学, 2013 年 3 月) (口頭発表) (査読無)

13. 須藤智・酒井徹也・坂井敬子 (2013). 作業端末の違いがグループワークにおける学びに及ぼす影響 (1) -iPad と紙の違いに注目して：量的指標からの検討- 大学教育フォーラム. (京都, 京都大学, 2013年3月) (口頭発表) (査読無)
14. 坂井敬子・須藤智・佐藤龍子 (2013). 汎用的／専門的／実務的資質能力の学年による違いと学業成績との関連 大学教育フォーラム. (京都, 京都大学, 2013年3月) (口頭発表)
15. 田中伸之輔・原田悦子・須藤智・安達悠子・日根恭子 (2012). グループ活動は高齢者による人工物利用学習を促進するか (その2) : 参加者の発話による支援の効果の分析 日本認知科学会第29回大会. (仙台, 東北大学, 2012年12月) (ポスター発表)
16. 須藤智・原田悦子・田中伸之輔・安達悠子・日根恭子 (2012). グループ活動は高齢者による人工物利用学習を促進するか (その1) : 課題達成と主観評価による量的指標による検討 日本認知科学会第29回大会. (仙台, 東北大学, 2012年12月) (ポスター発表) (
17. 安達悠子・須藤智・原田悦子・熊田孝恒・近藤公久 (2012). 人工物利用に対して高齢者が感じる主観的利用困難度：認知的加齢現象との関係 日本認知科学会第29回大会. (仙台, 東北大学, 2012年12月) (ポスター発表)
18. 原田悦子・茂呂雄二・葛岡英明・須藤智 (2012). 人工物利用のためのコミュニティ：アクションリサーチ報告 日本認知科学会第29回大会. (仙台, 東北大学, 2012年12月) (口頭発表)
19. 須藤智・原田悦子 (2012). 問題解決型学習課題における非明示型ガイドの効果-認知的加齢の影響- 日本心理学会第76回大会. (東京, 専修大学, 2012年9月) (ポスター発表) (査読無)
20. 須藤智・山口 一大・小西 なつみ・Lin Polong・原田悦子 (2012). 問題解決型学習過程に対する年齢差・性差・概日リズムの影響 日本認知心理学会第10回大会. (岡山, 岡山大学, 2012年5月) (ポスター発表) (査読無)
21. 原田悦子・田中昂平・須藤智 (2012). 3D 映像は視覚情報処理を促進するか：認知的課題達成での年齢群比較による検討 日本認知心理学会第10回大会. (岡山, 岡山大学, 2012年5月) (ポスター発表) (査読無)
22. Harada, E. T., Yamaguchi, K., & Suto, S. (2012). Exploring Age Differences in the Learning Process Using Verbal-Behavioral Protocol Analysis With a Maze Learning Task. Cognitive Aging Conference 2012 in Atlanta. (アメリカ, アトランタ, 2012年4月)
23. Harada, E. T., Moro, Y., Kuzuoka, H., & Suto, S. (2012). Founding the Center for Usability and Aging Research (CUAR) With Senior Citizens: A Proposal. Cognitive Aging Conference 2012 in Atlanta. (アメリカ, アトランタ, 2012年4月) (ポスター発表)
24. Ogata, K., Suto, S., Kumada, T., & Ifukube, T. (2012). Effects of Age-Related Decline of Cognitive Function on Job Tasks Using a Central Monitoring Device.

- Cognitive Aging Conference 2012 in Atlanta. (アメリカ, アトランタ, 2012年4月)
(ポスター発表)
25. Suto, S., Yamaguchi, K., Lin, P., & Harada, E. T. (2012). Differences in the Learning Process: A Comparison on Maze Solving Between Age, Gender, and Time-of-Day. Cognitive Aging Conference 2012 in Atlanta. (アメリカ, アトランタ, 2012年4月) (ポスター発表)
 26. 坂井敬子・須藤智・佐藤龍子 (2012). 大学1・2年生における汎用的／専門的／実務的資質能力の検討 第18回大学教育フォーラム. (京都, 京都大学, 2012年3月) (口頭発表) (査読無)
 27. 須藤智・佐藤龍子 (2012). 学生からの視点によるクリッカーが効果的に機能するための要因の検討 第18回大学教育フォーラム. (京都, 京都大学, 2012年3月) (口頭発表)
 28. 須藤智・熊田孝恒 (2011). 再テスト法によるAIST式認知加齢検査の信頼性の検討, 日本心理学会第75回大会. (東京, 日本大学, 2011年9月) (ポスター発表) (査読無)
 29. 原田悦子・浅野昭祐・須藤智 (2011). 認知的加齢と課題切換の効果: 数字選択課題による検討 日本心理学会第75回大会. (東京, 日本大学, 2011年9月) (ポスター発表)
 30. 緒方啓史・熊田孝恒・須藤智 (2011). 加齢による認知特性の変化を考慮した作業用ICT機器のインタフェース・デザイン: ビルの中央管理室の警報対処を例とした実験的検討 日本認知科学会第28回大会. (東京, 東京大学, 2011年9月) (ポスター発表) (査読無)
 31. 原田悦子, 森健治・須藤智 (2011). 「読む」行為と紙/PC/タブレット端末: 説明文と小説の「読み」の比較から 日本認知心理学会第9回大会. (東京, 学習院大学, 2011年5月) (ポスター発表) (査読無)
 32. 緒方 啓史・須藤智・熊田 孝恒(2011).加齢による認知特性の変化を考慮した作業用ICT機器のデザインビル中央管理室の作業を例とした実験的検討 日本認知心理学会第9回大会. (東京, 学習院大学, 2011年5月) (口頭発表) (査読無)
 33. 須藤智・熊田 孝恒 (2011).認知的加齢が時間制約下の情報機器の操作に及ぼす影響 なぜ、券売機は使いにくいのか? 注意資源のリソースの加齢変化の観点からの検討 日本認知心理学会第9回大会. (東京, 学習院大学, 2011年5月) (ポスター発表) (査読無)
 34. 原田 悦子・浅野 昭祐・須藤智・ハッシャー リン (2010). 課題切換がもたらす促進効果と加齢-数字選択課題による検討 第8回日本認知心理学会大会. (九州, 西南学院大学, 2010年5月) (口頭発表) (査読無)
 35. 浅野 昭祐・原田 悦子・須藤智 (2010). プランニングにおける認知的負荷と加齢の影響 朝食課題を用いた検討 第8回日本認知心理学会大会 (九州, 西南学院大学, 2010年5月) (ポスター発表) (査読無)
 36. 須藤 智・熊田 孝恒 (2010). 加齢に伴う認知機能低下が情報機器の操作に及ぼす影響 券売機シミュレータの操作パフォーマンスと認知機能低下の関係 第8回日本認知心理学会大会 (九州, 西南学院大学, 2010年5月) (口頭発表) (査読無)

37. 須藤智・佐藤龍子 (2010). 学生の視点から考える大講義授業におけるクリッカーの効果的な利用方法の検討 e-learning 学会. (東京, 法政大学, 2010年10月)(口頭発表)
38. 鈴木 義章・本宮 志江・原 有希・須藤智・北島 宗雄・熊田 孝恒・佐藤 稔久 (2009). 高齢者の認知特性に適合した Web インタフェースのデザインに関する研究(2) -理論: Web 操作モデルと高齢者の認知機能の影響- ヒューマンインタフェースシンポジウム 2009. (東京, お茶の水大学, 2009年9月) (口頭発表)(査読無)
39. 須藤智・北島 宗雄・熊田 孝恒・佐藤 稔久・鈴木 義章・本宮 志江・原 有希 (2009). 高齢者の認知特性に適合した Web インタフェースのデザインに関する研究(1) -理論: Web 操作モデルと高齢者の認知機能の影響- ヒューマンインタフェースシンポジウム 2009. (東京, お茶の水大学, 2009年9月) (口頭発表)(査読無)
40. 須藤智・熊田孝恒 (2009). AIST 式認知加齢検査の妥当性の検討, 日本心理学会第 73 回大会. (京都, 同志社大学, 2009年8月) (ポスター発表)(査読無)
41. 須藤智・原田悦子・新井田統 (2009). 動画の共有と対話: 遠隔での動画共有は可能か, 日本認知科学会第 26 回大会. (神奈川, 慶應大学, 2009年9月) (ポスター発表)(査読無)
42. 須藤智 (2009). 高齢者にとっての使いやすい情報機器の認知心理学的研究 日本心理学会第 73 回大会. (京都, 同志社大学, 2009年8月) (口頭発表)(査読無)
43. 須藤智・熊田孝恒 (2009). 画面・刺激サイズが視空間的作動記憶に及ぼす影響の年齢差 日本認知心理学会第 6 回大会. (東京, 立教大学, 2009年7月) (ポスター発表)(査読無)
44. 鈴木 義章・本宮 志江・鹿志村 香・須藤智・佐藤 稔久・熊田 孝恒・北島 宗雄 (2008). 高齢者の認知特性に適合した情報家電等機器インタフェースのデザインに関する研究 (1) ヒューマンインタフェースシンポジウム 2008. (大阪, 大阪大学, 2008年9月) (口頭発表)(査読無)
45. 原田悦子, 須藤智, 新井田統, 登壇: 須藤 (2008). 対話での視覚情報共有: カメラ画像の共有は対話を支援するか 認知科学会第 25 回大会. (京都, 同志社大学, 2008年9月) (口頭発表)
46. 須藤智・兵藤宗吉 (2008). 言語化されやすい視覚的情報のリハーサルに及ぼす無関連絵画刺激の影響 -視空間的作動記憶モデルの枠組みからの検討- 日本心理学会第 72 回大会.(札幌, 北海道大学, 2008年9月)(ポスター発表)(査読無)
47. 須藤智・佐藤 稔久・熊田孝恒・北島宗雄・鈴木義章・本宮志江・鹿志村香 (2008). 高齢者の認知特性に適合した情報家電機器インタフェースのデザインに関する研究 日本認知心理学会第 6 回大会. (千葉, 千葉大学, 2008年5月) (口頭発表)(査読無)
48. Suto, S., Kumada, T., Sato, T., Kitajima, M., Suzuki, Y., Motomiya, Y., & Kashimura, K. (2008). Relationships between cognitive functions and usage of IT-based equipments. Cognitive aging conference 2008. (アメリカ, アトランタ 2008年4月)(ポスター発表)
49. Suto, S. & Harada, E. T. (2007). Between Performances and Metacognitions on Attention. -Paper-and-Pencil Testing With Younger and Older Adults. The

- Psychonomic Society 48th annual meeting. (アメリカ, ロングビーチ, 2007年11月) (ポスター発表)
50. 須藤智・原田悦子・兵藤 宗吉 (2007). 目標の切替を求める認知課題に対する加齢の影響 日本心理学会第70回大会. (東京, 東洋大学, 2007年9月) (ポスター発表) (査読無)
 51. 須藤智・原田悦子 (2007). 加齢と注意: 日常的注意のメタ認知的評価と注意関連課題達成から 日本認知心理学会第5回大会.(京都, 京都大学, 2007年5月) (ポスター発表) (査読無)
 52. 須藤智・兵藤宗吉 (2006). 視覚的リハーサルに対する無関連絵画刺激の妨害要因の検討 日本心理学会第69回大会. (福岡, 九州大学, 2006年11月) (ポスター発表) (査読無)
 53. Harada, E. T., and Suto, S. (2006). How Cognitive Aging and Error Repetitions: the roles of Attention. The Psychonomic Society 47th annual meeting. (アメリカ, ヒューストン, 2006年7月) (ポスター発表)
 54. Suto, S., & Harada, E. T. (2006). Attention and error repetitions. International conference of cognitive science 2006. (カナダ, バンクーバー, 2006年7月) (ポスター発表)
 55. 須藤智・兵藤宗吉 (2006). 視覚的リハーサルに対する無関連絵画刺激の妨害要因の検討 日本認知心理学会第4回大会.(名古屋, 中京大学, 2006年8月) (口頭発表) (査読無)
 56. 須藤智・兵藤宗吉 (2005). 作動記憶における視覚的リハーサルに対するグラデーショ刺激の妨害効果の検討 日本心理学会第69回大会. (東京, 慶應大学, 2005年9月) (ポスター発表) (査読無)
 57. 原田悦子・須藤智・熊田孝恒・南部美砂子・森健治 (2005). 認知的加齢検査と日常的注意および記憶パフォーマンス 日本心理学会第69回大会. (東京, 慶應大学, 2005年9月) (ポスター発表) (査読無)
 58. 須藤智・兵藤宗吉 (2005). 作動記憶における視覚的リハーサルに対する視覚絵画刺激の妨害要因の検討 日本認知心理学会第3回大会. (金沢, 金沢大学, 2005年5月) (ポスター発表) (査読無)
 59. Suto, S., Takenaka, A., & Hyodo, M. (2005). The relationship between imagery and visuo-spatial working memory. 6th Tsukuba International Conference on Memory. (筑波, 筑波大学, 2005年3月) (ポスター発表)
 60. 原田悦子・須藤智・南部美砂子 (2005). 会話エージェントをいかに評価するか: 3種類のロボット対話デザインを対象として 日本認知科学会第22回大会. (京都, 京都大学, 2005年7月) (口頭発表) (査読無)
 61. 原田悦子・須藤智 (2005). エラー反復のメカニズムと注意機能 日本認知心理学会第3回大会. (金沢, 金沢大学, 2005年5月) (口頭発表)
 62. 原田悦子・須藤智・西木愛 (2004). ペット飼育経験が概念知識に与える効果: 文検証課題による検討 日本認知心理学会第2回大会. (京都, 同志社大学, 2004年5月) (口頭発表)

63. 南部美砂子・原田悦子・須藤智・重森雅嘉・福井トシ子・瀬戸僚馬・加倉井華誉子・野呂耕助 (2004). 医療の場におけるリスク共有コミュニケーション：看護師を中心とする対話データの分析 日本認知心理学会第2回大会. (京都, 同志社大学, 2004年5月) (口頭発表)
64. Suto, S. & Hyodo, M. (2004). Components of visual and spatial rehearsal system in working memory. Second International Conference on Working Memory. (京都, 京都大学, 2004年8月) (ポスター発表) (査読無)
65. Suto, S. & Hyodo, M. (2004). An examination of the visuo-spatial rehearsal in working memory. 5th Tsukuba International Conference on Memory. (筑波, 筑波大学, 2004年2月) (ポスター発表) (査読無)
66. 須藤智・兵藤宗吉 (2004). 再認法による視空間的情報のリハーサルシステムの検討 日本認知心理学会第2回大会. (京都, 同志社大学, 2004年5月) (ポスター発表) (査読無)
67. Harada, E. T., & Suto, S. (2003). Cognitive aging and interference from distracters on the same screen. Psychonomic Society the 44th annual meeting. (カナダ, バンクーバー, 2003年11月) (ポスター発表)
68. 須藤智・兵藤宗吉 (2003). 作動記憶における視空間的情報のリハーサルシステムの検討. 日本心理学会第67回大会. (東京, 東京大学, 2003年9月) (ポスター発表)
69. 須藤智・兵藤宗吉 (2003). 視覚的課題による視空間的情報のリハーサルシステムの検討. 日本認知心理学会第1回大会. (東京, 日本大学, 2003年5月) (ポスター発表)
70. 須藤智・兵藤宗吉 (2002). 注意制御システムは視空間的情報のリハーサルに関与しているのか? 日本基礎心理学会第21回大会. (千葉, 千葉大学, 2002年11月) (ポスター発表)
71. 須藤智 (2002). 無関連視覚刺激が視空間的情報のリハーサル処理に及ぼす影響 日本心理学会第66回大会. (広島, 広島大学, 2002年9月) (ポスター発表)
72. 須藤智・兵藤宗吉 (2001). 空間性ワーキングメモリがリハーサル処理に及ぼす影響の検討 日本心理学会第65回大会. (筑波, 筑波大学, 2001年11月) (ポスター発表)

C その他・特記事項

■ 科研費

1. 2011年4月~2014年3月 人工物利用における「背後にある潜在論理構造」の学習：認知的加齢の影響の検討 (基盤B: 23500323), 科学研究費 (日本学術振興会) 分担研究者
2. 2014年4月~2017年3月 高齢者における「焦り」の認知的制御に対する妨害メカニズムの解明と認知工学的応用 (若手B: 26870251), 科学研究費 (日本学術振興会) 代表研究者

■ 科研費以外の競争的研究資金等

1. 2010年10月~2011年3月 中央監視システムのインターフェース評価用ツール (ソフト

- ウェア)の開発. 企業との共同研究 (アズビル株式会社) 代表研究者
2. 2011年6月~2012年3月 認知科学の知見を応用した高齢者に使いやすいビルの中央監視盤に関する研究, 企業との共同研究 (アズビル株式会社) 代表研究者
 3. 2011年9月~2014年9月 高齢者による使いやすさ検証実践センターの開発, JST-RISTEX 科学技術振興機構 共同研究者

3. 教育上の業績

A 担当授業

1. 2006年4月~2007年3月
東邦大学理学部 (非常勤) 心理学基礎実験, 2時間/週
2. 2006年4月~現在
中央大学文学部 (非常勤) 心理統計法, 心理学基礎実験, 心理学特別演習, 2時間~6時間/週 (現在は, 心理学特別演習のみ)
3. 2006年4月~2010年3月
中央大学法学部通信教育課程 (非常勤), 心理学, 夏期集中 15コマ
4. 2006年4月~2009年3月
法政大学大学院人間社会研究科 (非常勤), データ分析法, 2時間/週
5. 2007年4月~2008年3月
法政大学社会学部 (非常勤), コンピュータ入門, プログラミング入門, 演習1・2・3 (ゼミナール) 4~8時間/週
6. 2008年4月~2010年3月
新潟大学大学院自然科学研究科 (非常勤), 認知心理学・医療・福祉工学特別講義I, 夏期集中 15コマ 30時間
7. 2009年4月~2010年3月
淑徳大学総合福祉学部 (非常勤), 心理学基礎実験, 4時間/週
8. 2011年4月~現在
東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科 (非常勤), 認知心理学特論, 隔年開講, 集中 15コマ 30時間
9. 2012年4月~現在
東洋大学ライフデザイン学部 (非常勤), 認知科学, 集中 15コマ 30時間
10. 2009年4月~2010年3月
目白大学外国語学部(常勤), コンピュータ演習I・II・応用 22時間/週
11. 2010年4月~現在
静岡大学 大学教育センター
 - ① 心理学 (浜松, 静岡) 2010年~現在
 - ② キャリアデザイン (静岡) 2010年~現在 (最大3コマ)

- ③ 地域連携プロジェクト型セミナー（静岡） 2013年
- ④ 金融機関窓口からみる地域経済（静岡，浜松）前期 2013年～現在
- ⑤ 日本事情（静岡）後期 2012年

B その他・特記事項

- 1. 現在，学内チューターズルーム運営 2012年～現在
- 2. クリッカーを活用した授業の実施 2011年～現在
- 3. キャリアデザイン授業における各種授業実践（Webクリッカー，ルーブリック）2011年～現在
- 4. 新入生セミナー授業用ビデオ教材の作成 2011年～現在

7. マネジメント上の業績

・学内委員等

- 1. 情報基盤設備仕様策定委員会 委員 2012年4月～2013年3月
- 2. 大学教育センター 広報委員会 委員 2012年4月～現在
- 3. 全学キャリアデザイン教育・FD委員会 委員 2010年4月～現在
- 4. 生涯教育委員会 委員 2010年1月～2013年3月
- 5. 教育企画室会議 委員 2012年1月～現在

・学内業務

- 1. 文部科学省 就業力育成支援事業 事業実施担当者 2011年9月～2012年3月
- 2. 文部科学省 産業界ニーズGP 事業実施担当者 2012年4月～現在
- 3. 文部科学省 教育再生加速プログラム申請補助 2014年5月
- 4. 学内のFD活動の支援 2010年～現在
- 5. キャリアデザイン・FD委員会の運営 2010年～現在
- 6. しずおか就職連絡会委員会への参加 2012年～現在
- 7. ふじのくに大学コンソーシアム企画委員会の補助 2014年～現在
- 8. 就職相談員との懇談会への参加 2011年～現在
- 9. 学務情報システムの運営支援 2011年～現在
- 10. 学内ビデオ教材視聴用Webサイトの構築 2013年～現在
- 11. 附属図書館浜松分室の設備企画 2013年
- 12. 就職支援課の運営の補助 2011年～現在
- 13. TAハンドブック・FDハンドブックの作成 2012年
- 14. 就職支援システムの運営プロジェクトチーム 2011年～現在
- 15. 東海地区大学教育大会の運営・補助 2011年

8. 特許・表彰・学位

A 特許

1. なし

B 表彰

1. 2006年10月 日本認知科学会 論文賞受賞（南部美砂子・原田悦子・須藤智・重森雅嘉・内田香織 (2006). 医療現場におけるリスク共有コミュニケーション：看護師を中心とした対話データの収集と分析. 認知科学, 13(1),62-67)
2. 2009年5月 第7回日本認知心理学会優秀発表賞「社会的貢献度評価部門」受賞（須藤智・熊田孝恒, 画面・刺激サイズが視空間的作動記憶に及ぼす影響の年齢差）

C 学位

1. 須藤智,作動記憶における視空間的情報のリハーサルシステムに関する実験心理学的検討.
2003年3月. 修士（心理学）, 中央大学
2. 須藤智,作動記憶における視空間的情報のリハーサルシステムに関する認知心理学的検討.
2006年3月. 博士（心理学）, 中央大学

9. 所属学会及び学会における活動

1. 2001年4月～現在 日本心理学会 会員
2. 2003年4月～現在 日本認知心理学会 会員
 - ① 日本認知心理学会高齢者心理研究部会事務局事務局
 - ② 日本認知心理学会第3回公開シンポジウム実行委員会委員
 - ③ 日本認知心理学会第10回 大会実行委員会委員
 - ④ 日本認知心理学会社会連携委員会委員
 - ⑤ 日本認知心理学会情報化推進委員会委員
3. 2006年4月～現在 認知科学会 会員
4. 2006年4月～現在 Psychonomic Society 会員
5. 2011年10月～現在 電子情報通信学会 通信行動工学時限研究専門委員会専門委員
6. 2014年4月～現在 大学教育学会 会員

10. 社会的活動

■講演

1. 2007年7月 第40回ロボット工学セミナー, ロボットの心理学的評価～心理実験の基礎と実践～:「ロボット評価における心理学的・認知科学的な評価手法について一人とロボットの相互作用の視点から」 日本ロボット学会
2. 2011年1月 教育 EXPO:「ユーザの視点から大学講義におけるクリッカーの使い方を考える」

認知工学における使いやすさ研究の視点からー」 内田洋行

3. 2012 年 11 月 吉田町大学特別公開講座 長寿社会と向き合う高齢者心理学から考える高齢者にとってのモノの使いやすさとは？ 静岡県吉田町
4. 2013 年 8 月 FD 講演会：「授業評価をどのように授業改善に結びつけるのか？」 常葉大学短期大学部
5. 2013 年 7 月 アズビル株式会社 社内研修会 講演・ワークショップ実施 2 コマ
6. 2014 年 7 月 公開シンポジウム・社会のための心理学シリーズ, 医療の質・安全に役立つ心理学研究を考える：「在宅医療：加齢による変化と医療機器のありかたを考える」 日本心理学会
7. 2014 年 7 月 アズビル株式会社 社内研修会 講演・ワークショップ実施 2 コマ

■ その他

1. I Love しずおか協議会との連携（授業連携, Web サイトの企画支援）
2. 社会連携推進機構 2013 年度 静岡大学 地域連携応援プロジェクト採択(学内競争的経費)